

長野大学
編入学試験

「小論文」

受 験 番 号	
F F —	
T T —	
J J —	
	氏 名

△受験上の注意▽

- ① 試験中は試験監督者の指示に従うこと。
- ② 筆記用具・時計以外はカバン等に入れてイスの下に置き、机の下の棚には何も置かないこと。
- ③ 携帯電話の電源を切り、アラームを解除すること。
- ④ 質問等がある場合には黙って挙手すること。
- ⑤ 途中退場は認めない。
- (体調の急変等については、挙手して申し出ること)
- ⑥ 試験開始の合図があつたら、「出題文用紙」「下書き用白紙」「解答用紙」があるので確認すること。
- ⑦ 表紙、解答用紙に受験番号、氏名を記入すること。
- ⑧ 解答用紙は鉛筆書き(シャープ・ペンシルも可)とし、楷書で丁寧な書くこと。
- ⑨ 時間は六〇分である。

二〇二五（令和七）年度 長野大学 編入学試験
小論文 出題文用紙

次の文章を読み、設問一および設問二に答えなさい。

社会問題を取り上げて研究しようとする者は、どのような点に留意すべきかについて考えてきた。要約的に述べれば、「自分が問うたこと、知りたいことを徹底的に調べ、証拠を挙げつつ筋道を立てて推論し、人を納得させる作業だ」ということに尽きる。社会研究自体には価値判断はないと軽々に信じてはならない。価値判断がどこに入るのかをできる限り意識しつつ、分析と推論の構造を自覚する必要がある。急いで結論だけを主張するのではなく、数量化できない社会風土と呼ばれる歴史的堆積物や文化的環境を考慮しつつ、感情に押し流されることなく論証することなのだ。

世間には、単に繰り返し主張されてきたという理由だけで「真理」とみなされていることが少なくない。多数の人がそう思い込んでしまつて通説となつたものもある。「日本は終身雇用の国であり、日本人は企業への忠誠心が強い」というのもその一例であつた。健全な懐疑の精神で再検討すべきことも含めて、われわれの周りには明らかになつていないこと、分かつていないことが驚くほど多い。

社会問題を取り上げて、そこに潜む因果連関を論理的に（筋道を立てて）取り出して、最終的にいかなる価値の対立があるのかをあぶり出すことも重要だ。問題の歴史的経緯を踏まえ、数量的な情報を含めたデータを丁寧に集め、データだけでは裏打ちできないことも多いので、データの空白を埋めるための想像力を大事にしつつ推論することが社会研究の基本になる。

最後に繰り返しになることを承知の上で、改めて強調したい点を補足しておきたい。

（１）重要なことは、何が問題なのかを見いだし、どのように問いを立てるかというところにある。その場合、同時代（contemporary）の社会が直面する問題・課題との関連も改めて問うべきだろう。その意味で「時論」やジャーナリズムを軽視してはならない。歴史的に見ても、社会研究は、概念化とモデル分析を通して経済社会を理解する論理（文法）を提供してきた。こうした作業は、ほとんどの場合、「同時代の問題」と向き合うことによつて生まれた。

これはスミス、リカード、マルサス、マルクス、マーシャル、ケインズなど過去の偉大な社会研究者を思い浮かべれば明らかであろう。しかしこうした偉大な研究者だけに目を奪われることはない。これら偉人たちが多くを吸収した彼らの先達、あるいは同時代人、そして彼らの取り組んだ問題を継承しつつ問い続けた、後の世代の研究者たちの地道な仕事も、同時代の難問に真正面から向き合った点でも忘れてはならない。

（２）さらに指摘したいのは、問題は、政治学、経済学、社会学といった一つの分野だけの学問で理解できるわけではないという点だ。ひとりの人間がこれらすべての分野を学び、理解することはできない。しかし「すべてを知っているわけではない」という謙虚さは不可欠だ。そのためには人間の「感情」の世界に深く分け入る人文学と社会科学の相互依存関係の認識は重要になる。

工学などの分野で、AIが夢のような便利な社会をもたらしてくれると近年熱っぽく語られることがある。先端技術分野の英雄のひとりとみなされたステイヴ・ジョブズ（1955～2011）の発言として、雑誌 *The New Yorker* (Oct. 7, 2011) で、「技術だけでは十分ではない。われわれの心を躍らせるような結果を生み出すのは、人文知と結びついた、リベラル・アーツ（註１）と融合した技術なのだ」という言葉が引用されている。イノベータータイプな仕事をする人、最先端の見事なイノベーション（註２）に関わる人は、関心の広さと深さを持った人間だということを示すよい例だろう。

（註１）リベラル・アーツ…人間性を豊かに育む幅広い、基礎的な学問領域。自由学芸、教養諸学を指す。
（註２）イノベーション…技術革新、経営革新はじめビジネス・スタイルの開拓、新たな価値の創造をもたらすプロセス。

（猪木武徳『経済社会の学び方―健全な懐疑の目を養う』一部改変）

設問一 要旨を二〇〇字（二〇字×一〇行）以内で書きなさい。

設問二 著者の主張をふまえ、あなたの意見を四〇〇字（二〇字×二〇行）以内で書きなさい。

